

「地政学」という言葉は、すっかり日本のメディアにも定着した感がある。年初からの海外ニュースを拾ってみても、サウジアラビアとイランの断交や北朝鮮に拠るミサイル発射、ロシア軍のシリア撤退そしてベルギーにおける連続爆破事件など、各地で多種多様な「地政学リスク」が地表に噴出している。

地政学とはそもそも政治と地理が結合した分野であり、その文脈において軍事的な色彩が強くなるのは当然だろう。地政学が説明される際には、必ずと言ってよいほど19世紀後半以降の欧米列強による軍事拡大・領土拡張という視座が用いられる。

確かに地政学の本源は、英国の地理学者マッキンダー、米国の軍事専門家マハン、ドイツの地政学者ハウスホーファーなどによって、帝国主義から第二次世界大戦に至るまでの「世界的な戦国時代」に培われたものである。

そうした政治的・軍事的な分析に重点が置かれる座標軸は今日でも生きており、日本にとっては北朝鮮だけでなく中国も地政学の極めて重要な観察対象となっている。そして米国の外交方針やロシアの対アジア戦略、或いはASEAN諸国の対中戦略などの変化過程も、当然ながら日本の地政学が無視出来ない変数になる。

だが、資本主義経済や金融市場の観点から見る地政学の関心は、そうした側面に止まらない。拙書「地政学リスク(歴史をつくり相場と経済を攪乱する震源の正体)」は、政治や軍事ではなく、市場経済の視点から地政学に付随するリスクを捉えようとしたものである。

本書では、経済と市場に地政学がどう影響を与えるのかを概観すると同時に、地政学に対して資本主義のシステムがどんな影響を与えているか、という正反対の側面にも光を当てたつもりである。

筆者が「地政学」という言葉に初めて出会ったのは2002年のことだ。その前年の2001年に起きた9.11事件が実体経済や金融市場に多大な影響を与えたことはまだ記憶に新しいが、米国の金融当局はその事件を念頭に置いて、今後警戒すべきリスク要因として「地政学リスク」という言葉を使用したのである。

その当時、地政学なる言葉は市場関係者にとっては聞き慣れない、そして馴染みの薄いものであった。1979年から内外の市場ビジネスに携わってきた筆者も、地政学という言葉が相場変動要因として使われた記憶がない。それは、新しいリスク概念のようにも思えたのである。

だが、実際に中東、欧州、中南米、アジアなど各地域で頻発する「地政学的事象」を眺めてみれば、それは決して目新しいリスクではないことがわかる。筆者が現役時代にディーリング・ルームで体験した幾つかの衝撃は、まさに地政学から派生したショックであった。

それどころか、金融史の観点から地政学を眺めてみれば、資本主義と資本システムの黎

明期から、経済と地政学はまるで二人三脚のように寄り添いながら、時代の変化の波を潜り抜けてきたことが浮き彫りになる。本書では、筆者が体験した生々しい事件のほかに、経済・通貨・市場などの各面と地政学との結節点を、8つの項目に整理してみた。

また、市場や経済を揺さぶる地政学といっても、そのタイプは様々である。宗教対立から派生するもの、民族意識的な抗争が土壌となっているもの、経済的なイデオロギー闘争が根底に潜むもの、そして民主主義への渴望が突き動かすものなど、その形態は幾つかに類型化することが出来る。

さらに現代的な意味では、市場経済にとって環境破壊という新しいタイプの地政学をも視野に入れておく必要があるように思われる。本書が地政学に関する類書と大きく異なる点があるとすれば、21世紀の地政学リスクとして、原発や温暖化ガスなど環境の視点を組み入れたことである。

そして、今日の世界経済や国際金融の姿を、地球儀を回すようにして眺めてみれば、各地域における地政学が米国という政治・経済・軍事における「一強」の存在に強く影響されていることもわかる。それは、世界の経済社会が米国の資本市場とドルという「金融インフラ」に支えられていることとも深く関係している。

今日、欧州、中国、ロシア、中東そして中南米などで観測される「地政学リスク」は、地域的な動向と米国の関与という複眼的なアプローチを採らなければ、地政学と経済との関係が見えてこない。本書では、その点についても考慮しながら地政学リスクを捉える必要性を指摘した。日本経済も、実は米国が複雑化させる地政学の上で稼働している、一つの地域システムなのである。

地政学に関しては、予想もつかないことが起きる可能性がある。戦後の国際社会も、ソ連崩壊やアラブの春そして中国経済の台頭、欧州の難民問題など、人々の想定通りに形成されてきたわけではない。北京で蝶が羽ばたけばブラジルで大洪水が起きる、と例えられるバタフライ効果は、地政学においても発生し得ることを忘れてはなるまい。

もちろんそんな現象を正確に予知することは出来ないが、新たなリスクの発生がどういう結果をもたらしうるのか、と常に想像力を働かせておくことは、21世紀の重要なリスク管理の仕事であろう。現代の投資家やビジネスマンにとって、地政学リスクの歴史に学び、今日を観察し、明日に備えることは、いまや必要不可欠な作業なのである。